

# 七月の俳句

(2020年7月)



## 目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
10	6	1
）	）	）

< 文月 >

盛夏，真夏，向暑，猛暑，酷暑，炎暑，厳暑，涼風，文月，星祭，七夕，七日盆，天の川

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに  
巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

ラベンダー北の大地に波を打つ  
ラベンダー蜂を呼び寄せキス求め

裸婦像に色を添えたる青時雨  
温暖化ますます吠える梅雨の雷  
梅雨曇り三密避けて墓地散歩

ユウスゲは夕に黄の花一夜花  
ほたるぶくろ昨日の白と今日の白

殺し文句燃ゆるサルビア淋しくて  
欲張って願ひ叶わぬ笹飾り

噴水や止む瞬間に宇宙あり  
若き娘の玉の汗など集めたい

哲学者鉄棒嫌い白南風  
麦わら帽子今やセレブの御用達



夕立も豪雨災害出来不出来  
夕立やふと想い出す樹木希林  
夕立をこれ幸いに立ち飲み屋  
夕立の打ちたるダム湖静まりぬ  
釣堀に夕立が来て退散す

老いてなお浴衣を着れば二十歳かな  
萬緑を浴びて修行高野僧  
コツコツと秒針回る緑の世

星涼しパソコン操作進化せず  
花火買う昭和レトロの雑貨店  
揚花火行き着く先は宇宙かな

虹を見てどこまで放浪認知症  
夕虹の検診結果赤ワイン  
瀬戸の橋渡る電車に虹架かる



短夜やスマホ頼りの繋がりを  
短夜や男決まっつてブラックを

ひまわりは世界を監視背伸びして  
向日葵や犯人逃げる迷路かな

膨らむはお腹の脂肪ダリヤ咲く  
蝶さえも黄なるダリアに心寄す  
ぽんぽんと天竺牡丹天保から  
ポンポンとダリアの花ははじけ咲く  
芸人は何故もてるのかダリア咲く  
ルーレットまわるがごとくダリアかな

跳んで跳んで多摩川上り鮎  
グラビアは今日も眩しき西日さす  
地場うちわ外国人へ美術品

雑草も都市型進化草茂る



蜘蛛の巣を無残に排除排除あり  
脳細胞蜘蛛の巣ごとく壊される  
アマゾンで買って自分にお中元

虹懸けて男尊女卑の雲の峰  
虹懸けて太郎ばかりの雲の峰  
いくつもの頭並べて雲の峰  
夜空にも雲の峰あり大吟醸  
いっぱいの不満をぶつけ雲の峰  
犬の目に映る大きく夏の雲

千日紅永きに咲いて飽きられず  
千日紅鎖国の江戸に渡来とか  
千日紅暑さこれから養生を  
千日紅仏壇飾りお線香  
潜水艦夏鷗群れ横須賀港  
思い出す豪雨ごときに蝉時雨  
ボートなどこげぬ若者空威張り



モロロク俳句

平凡にモロロク進む半夏生  
モロロクし金魚の数がなぜか増え  
金魚死す感傷も無くモロロクし

冷し中華具を欲張ってモロロクす  
まだ生きしモロロクすれど夜濯ぎす

かなぶんに好かれて男モロロクす  
モロロクしねじれて一人時計草

モロロクし昔の話星祭り  
昼寝してそしてテレビとモロロクし  
モロロクし猫に習って昼寝して  
モロロクしたただひたすらに昼寝して



モーロクし燃ゆるサルビア無計画  
明易きモーロクすれど人生や  
モーロクし途切れし眠り明易し  
明け易しモーロクすれば死亡欄

モーロクし心ひらけとねぶの花  
モーロクの男ややこし合歡の花  
合歡の花日課のブログ迷いごと

仏滅をおそれモーロク玉すだれ  
モーロクし見つめる蝉の七日間  
パスワード忘れモーロク蝉の森  
鳴き出してはやモーロクの蝉の声

雨の日はモーロクひどくラベンダー  
モーロクし雨の日ねむくラベンダー

とんぼつり昭和を偲びモーロクす





モーロクしあの世急がぬ山法師  
モーロクしトウモロコシの花穂かな

モーロクしされど念仏雲の峰  
モーロクし老人体操雲の峰

モーロクし我も目前木槿散る  
モーロクし好み変わらぬ氷菓かな  
モーロクし食べるアイスが歯にしみて

モーロクし人柄丸く葛桜  
モーロクし炭酸むせるソーダ水

モーロクし体臭離れ揚花火  
遠花火かすかに呼応モーロクし  
手花火を熱さで落とすモーロクし  
モーロクし少しはみ出し花火かな



モーロクしされど愛しきかぶと虫  
モーロクし昼夜逆転かぶと虫

モーロクし何かあやふし冷奴  
恙なくモーロクひとり冷や奴  
モーロクし好き嫌いなく冷や奴  
モーロクしこころあやふし冷奴

モーロクし風邪すら引けず日日草  
モーロクし大夕焼にお辞儀する  
モーロクしされどお辞儀を大夕焼

モーロクし出不精となり夏帽子  
モーロクしの体内時計夏落葉

モーロクし蝶の骨ゆく夏野かな  
モーロクも成長過程夏野かな  
モーロクし想ひきれぎれ夏野かな



モロロクし昔話に百日紅  
モロロクし夜空眺めて百日紅



たべもの俳句

メロンなど嫌いと言つて強がつて  
息止めて一気呵成にメロン切る

半夏生小松菜をゆでおひたしに  
新ごぼうごしごし洗う朝の風

新生姜佃煮にして夜が来て  
輪切りして青唐辛子を生醬油に  
南蛮漬け酸味が決め手夏おかず

加減して男の力きゆうり揉む  
トマトかじりローマ人の物語  
デパ地下のブランドトマト輝けり  
丸かじり昭和の子供トモトかな  
ベランダに宝石を産むミニトマト



絶妙な歯ごたえ茄子の塩炒め  
味噌汁に茗荷を加え地球かな  
夏おでんやはり食べたいたこの足

水なしでラタトゥイユカレー夏野菜  
酷暑には熱き緑茶で解暑解熱  
赤ワイン老化抑制暑氣払い

無限なす無限無限のビールかな  
茄子蒸して食欲をそそる香味だれ

夏に酌む冷やしひれ酒自家製で  
土用鰻三千キロの旅の果て

夏野菜たっぷり使い揚げ浸し  
夏野菜ソースを作りカルパッチョ  
夏野菜たっぷり使いラタトゥイユ



噛めば噛むタコの唐揚げおつまみに  
カラフルなサラダうどんの夏ランチ

ぼりぼりとスタミナ胡瓜かじりおり  
叩かれて胡瓜は香る皿に盛る

そうめんにはプラス一品ゴーヤ天  
鯖缶で手軽に作る鯖そうめん  
七夕に五色そうめん涼やかに  
秒針を眺めて茹でるそうめんを  
たっぷりの香味野菜で素麺を

イカスミのポテトチップや夏休み  
だし染みた丸ごとトマト夏おでん

どう生きる今はさておきまずビール  
居酒屋のコロッケ悲しビールかな



大事な日ハモのソテーの梅ソース

冷奴香味野菜を山にして  
冷奴紫蘇に茗荷に葱生姜  
口説ときなぜか居酒屋冷奴  
冷奴ひとそれぞれに流儀あり



